

被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!  
 幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!  
 被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

# 史料ネット News Letter

第 33 号 2003 年 6 月 26 日 (木) 発行：歴史資料ネットワーク (神戸大学文学部内)



震災史料整理のようす (2003 年 6 月 14 日撮影、神戸大学古文書室にて)

## 目 次

**巻頭言** 史料ネット改組から一年、その総括と本年度の方針について 奥村 弘... 2

第二回歴史資料ネットワーク総会の記録 ... 4  
 フォーラム「歴史資料の保存・活用と地域社会」開催 佐賀 朝... 10

**特集** 第四回震災復興市民歴史講座  
 「神戸の空襲・戦災史をさぐる」開催 辻川 敦... 12

参加記 光森史孝... 14

**特集** 西代シンポジウム  
 「歴史あるまち、神戸」開催 添田 仁... 15  
 参加記 山田修士・澤田尚久... 16

関連団体・会員からの情報  
 大阪歴史科学協議会 ... 18  
 京都民科歴史部会 ... 19  
 神戸大学地域連携センター ... 20  
 神戸大学史学研究会 ... 20  
 『尼崎市史』を読む会 ... 20  
 尼崎の近世古文書を楽しむ会 ... 21  
 各研究会情報  
 中世：兵庫津研究会サブ学習会 藤田明良... 21  
 近世：西摂研究会 (次回予告) ... 22  
 近代：神戸都市史研究会 三村昌司... 22  
 文献情報 ... 23  
 活動日誌 ... 23



## 史料ネット改組から一年、その総括と本年度の方針について

歴史資料ネットワーク代表委員 奥村 弘

5月17日、史料ネットの組織改組から一年がたち、新たな組織形態のもとでの総会が開催されました。昨年度の史料ネットの概要を極めて大きくみるなら、事業については、当初計画していた以上に展開できたと考えます。一方、組織作りは道半ばというところでしょうか。詳細は、活動報告等に譲りますが、簡単に概略しておきます。

まず第一に、鳥取・芸予の地震や史料ネットの総括作成事業のために進んでなかった被災史料の整理の件についてです。これについては大学院生を中心として、市民を加えたボランティアにより、継続的に展開できました。神戸大学の事務局保存分については、準備会も含め10回の整理が実施されました。神戸女子大ではべつに段ボール箱4箱の史料整理も進行しました。岡山大学の学生や、近隣の市民の方の参加も見られ、参加者の枠は、すこしずつ拡大しています。今年度は、昨年度同様、整理事業を進めていきたいと考えています。どんな方でも参加可能です。参加の程よろしく願います。

また一年に近世村一村程度のペースで進んでいた被災地での史料状況の追跡調査は、神戸市文書館との連携事業（緊急雇用促進特別交付金事業「市民から引き継いだ古文書整理等」）として、交付金をうけて展開中です。さらに今年度発足した神戸大学文学部地域連携センターを加え、三者の連携事業として、東灘区・灘区での追跡調査もはじまりました。この事業は、今年度も継続して展開していく予定です。

またこの事業のなかで、長田区西代協議会（近世村＝西代村）との交流も生まれました。様々な議論を経て、2003年5月には、「歴史あるまち、神戸・村の古文書からみる西代のむかし」という市民講座を協議会の協力により、開催することができました。史料ネットの通常の市民講座並の企画となりました。西代協議会とは、今後も歴史文化について、連携関係をもっていく予定です。また西代だけでなく、様々な市民やNGOとの連携もすすめていきたいと考えています。

第二は、西代の例にもあるように、市民との連携を重視した地域史研究の取り組みを新たにすすめた点です。一時中断していた市民講座は、本年度は、古代から現代まで四回にわたって開催しました。最大の課題は、市民が講座に主体的に参加でき、今後も継続して史料ネットとの関係をもてるようにするにはどうしたらいいかという点です。これについては毎回、運営委員会で議論を深めました。そのなかで、尼崎市のNPO シンフォニーに学び、講座後、参加者と主催者が一緒に懇談する場としてワイン・パーティーをあらたに設けました。当初は、参加していただけるかどうかもわからず、また懇談できるかも不安でしたが、回を重ねるごとに盛況となりました。また、市民のサークルである古

文書を読む会や、神戸大空襲を記録する会の方に講師をつとめていただくなど、あらたな方向をめざして、試行錯誤を続けています。昨年度につづき、今年度も、四回を基本として、市民講座を開催したいとおもいます。今年度は、昨年度の市民講座の中で生まれた、多くの方とのつながりを大切にしながら、企画を実現させていきたいと考えています。

第三には、阪神淡路大震災の記録の保存や活用についてです。人と防災未来センターそのものの展示や史料室については、様々な問題点があることは、これまで史料ネットでも紹介してきたところですが、なにより、見て、使って、考えるという点が大切であると考えています。そこで史料ネットでは、昨年5月26日の総会に合わせて人と防災未来センターの震災展示と資料室の見学会をおこないました。その後、神戸大学文学部地域連携センターによる震災資料の保存活用についての研究会があり、史料ネットもそこに参加しました。ここでは、現代史の民間資料という性格を持つ震災資料をいかに扱うかが、議論となりました。未来センターの資料室も、オープンして一年、蓄積が深まるとともに新たな課題も生まれていることも議論されました。

今年度、人と防災未来センターは第2期工事が終わり、新たな展示も始まりました。私も先日それを見ましたが、なんとも評価のしようのないものでした。史料ネットでは、7月13日に、その展示も含めた見学会を行います。見て頂いた上で、ご感想をおよせいただければと考えています。また今年度は、関東大震災70周年をむかえ、8月末、東京で大規模な研究集会がおこなわれます。史料ネット参加学会である歴史学研究会などが幹事団体をつとめており、史料ネットからも、報告をおこなう予定です。

第四は、自然災害時の対策です。これについては、昨年5月26日の総会後のシンポジウム「災害と歴史資料 - 各地の史料(資料)ネットの活動から」が、参加学会である歴史科学協議会の会誌『歴史評論』633号にまとめられました。ぜひご一読ください。総会后、宮城県北部と岩手県南部を中心に震度6弱を記録する地震が発生しました。現在のところ、われわれのつかんだ情報では、震度の割に建物などの倒壊や損壊はすくないようですが、東北地方では、さらに大きな宮城県沖地震が想定されており、この期に古い住宅の建て替えなどもすすめられることも考えられます。史料ネットでは、現地の情報をえるために、藤田事務局長を現地に派遣しましたが、今後も情報収集と、全国への発信のために力を尽くしていきたいと考えています。みなさまのご協力をお願いいたします。

事業が展開する一方、組織の強化については、最初にも述べたようにまだまだこれからです。史料ネットは、事業をすすめるために、専従の事務局員体制をなんとか取りたいと考えています。昨年度の予算で示したように400名の会員・サポーターの加入があれば、ぎりぎりそれが可能となりますのですが、実際には、その半数ほどに止まりました。事務局は、大学院生の方々に、なんとか支えていただいで維持してきました。

本年度中には、300名にまで会員・サポーターを拡大したいと思っています。市民への対応や震災対応を充実させるために、なんとか専従事務局員を置きたいと考えています。現在、目に見える会員特典は、市民講座の参加費が半額となること程度ですが、今後、様々な形での会員への会費還元もすすめていきたいと考えています。また多くの方にニュースレターを読んでいただき、私たちの活動を知っていただくために、読みやすいニュースレターづくりに力を入れていきます。さらに本年度は、メールマガジンの刊行も予定しています。また事務局では、会員・サポーターでない方に積極的に加入を訴えていきたいと考えています。

今年度も様々な形で、積極的に参加していただけるよう、よろしく願い致します。

(おくむら・ひろし / 神戸大学助教授)

# 2003年度 歴史資料ネットワーク総会開かる

2003年5月17日(土)、尼崎市小田公民館で、歴史資料ネットワーク総会、フォーラム「歴史資料の保存・活用と地域社会」が行われました。概要は以下の通りです。

日時：2003年5月17日(土)

場所：尼崎市小田公民館

13:00～14:00 歴史資料ネットワーク2003年度総会

《休憩》

14:10～17:00 フォーラム「歴史資料の保存・活用と地域社会」、講演：芝村篤樹氏(桃山学院大学教授)「地域史料の保存と現代歴史学の課題」、コメント：奥村弘(歴史資料ネットワーク代表)

参加者33名(会員：18名) 欠席者49名(委任：議長48名/大国正美氏1名)



総会を進行するにあたって最初に総会の議長として会員より木村修二氏が選出された(会場の拍手にて承認)。次に代表委員の奥村弘が2002年度史料ネットワークの活動報告を、続いて副事務局長の松下正和が2002年度の決算報告をおこなった。その後、佐賀朝氏より、会計監査報告がおこなわれた。その際年度の半期で一度決算を出すなど、事務局として改善すべき点が指摘された。なお、史料ネットと神戸市文書館との共同事業については、短期の事業であることなどを理由に特別会計として設定し、決算報告については担当者である添田仁氏によりおこなわれた。(特別会計に関する会計監査については、神戸市文書館作成書類により代貸。)

質疑では尾立和則氏(京都造形芸術大学)から、今後も文書館事業のようなものを引き受ける予定があるのか、またこうした事業が史料ネットにおいてどのように位置付くのかについて質問が寄せられた。史料ネットでは、このような事業を史料ネットの核とするつもりはないが、史料ネットの目的にかなったものであれば、今後引き受けることもある旨を回答している。その後、2002年度決算については、会場の拍手にて承認された。

引き続き2003年度活動方針案を事務局長の藤田明良が、2003年度予算案を松下が報告した。質疑では、尾立氏から、緊急対応基金の具体的な利用のしかたについての質問があった。これについて史料ネットからは、これまでの活動経験から地震が起こった初期の段階でどこまで迅速に対応できるのか、その点が最も重要であることを確認した上で、基金については地震の規模・被害状況によってその都度方針を立て、柔軟に対応していく必要があることを回答している。同時に地震の際は早急に全国的に募金活動を展開し、資金をまかなう旨を説明した。活動方針案・予算案についても会場の拍手にて承認されている。

最後に、2003年度運営委員が選出された。個人会員より藤田明良・辻川敦氏が選出されている。(会場の拍手にて承認)なお、学会会員も含めた運営委員人事の正式決定は、次回運営委員会にておこなわれる。2002年度活動報告・決算、2003年度活動方針案・予算案の詳細については参考資料を参照されたい。(以上、文責河野未央/この・みお)

( )6月16日の運営委員会にて決定。 [参考資料] 参照

歴史資料ネットワーク 2002年度活動報告

1. 被災史料の整理や被災地での調査活動

事務局保管の資料整理は、院生・学生・市民などのボランティアによって進められた。神戸大学では準備会を含め10回の整理が実施され、のべ86名の参加で約5箱分が終了した。さらに神戸女子大学で4箱分の整理も進行中である。また震災後の巡回調査を発展させた総合史料調査は、長田区で確認した史料を神戸市文書館との連携事業（緊急地域雇用促進特別交付金事業「市民から引き継いだ古文書整理等」）で整理を実施した。さらに今年度発足した神戸大学文学部地域連携センターが東灘区で開始した同様の調査にも、積極的に協力した。

準備会：2002年6月12日	参加者21名
第1回：7月14日	参加者11名
第2回：9月7日	参加者12名
第3回：10月26日	参加者7名
第4回：11月16日	参加者11名
第5回：12月15日	参加者10名
第6回：2003年2月2日	参加者13名
第7回：3月8日	参加者8名
第8回：4月13日	参加者6名

2. 市民との連携を重視した地域史研究の取り組み

4回実施した「市民歴史講座」では、研究成果の地域への還元とともに、会費制の「懇親会（ワインパーティー）」を催して、地域の住民や文化団体との交流や意見交換に努めた。

第一回 震災復興 市民歴史講座「震災後の発掘で変わる古代史像」

2002年6月16日（日）13:00～16:30 @神戸市東灘区 深江会館 参加65名、報告者：森岡秀人（芦屋市教育委員会）岡田精司（元三重大学）スライド上映：天羽育子（史料ネット・神戸女子大学院生）

第二回 震災復興 市民歴史講座「よみがえれ、兵庫の中世」

2002年10月6日（日）13:00～16:30 @神戸市兵庫区 能福寺講堂 参加112名  
講演：藤田明良（天理大学助教授）「新史料にみる兵庫津の興亡」スライドと展示：岡田章一（兵庫県教育委員会）・阿部功（神戸市教育委員会）「地下から出てきた町なみと暮らし」共催：兵庫津の文化を育てる会後援：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所・兵庫区役所

第三回 震災復興 市民歴史講座「市民と深める阪神間の江戸時代史」

2002年11月10日（日）13:00～16:40 @尼崎市 園田学園女子大学 参加105名  
講演：横田冬彦（京都橘女子大学教授）「江戸時代の書物と読書」サブ報告：木村修二（関西大学大学院）・石川道子（伊丹市博物館）「震災後の市民による古文書を読む会の展開と成果」後援：NPO 法人シンフォニー・宝塚市教育委員会・尼崎市・神戸市文書館 協力・会場提供：園田学園女子大学

第四回 震災復興 市民歴史講座「神戸の空襲・戦災史をさぐる」

2003年4月27日（日）13:00～16:30 @神戸市灘区 神戸青年学生センター（午前中見学ウォーキング実施）参加61名  
講演：中田政子（神戸空襲を記録する会）「神戸大空襲について」辻川敦（火垂るの墓を歩く会）「米軍資料から見た神戸大空襲」パネルディスカッション：「最近の取り組み・研究の動向と課題」佐々木和子（神戸大学文学部地域連携研究員）飛田雄一（神戸青年学生センター）正岡茂明（火垂るの墓を歩く会）共催：神戸空襲を記録する会、後援：神戸青年学生センター

現地見学会とシンポジウム「戦国の城・富松城の実像に迫る」

2002年6月8日（土）主催：富松城跡を活かすまちづくり委員会

第四回「火垂るの墓を歩く会」

2002年8月3日（土）6日（火）主催：「火垂るの墓を歩く会」実行委員会

シンポジウム「公害・環境問題資料の保存・活用ネットワークをめざして」

2002年7月21日（日）於：四日市市、主催：（財）公害地域再生センター・四日市公害を記録する会

「見直そう尼崎の宝・中世の富松城」展

2002年11月28日（木）～12月1日（日）於：富松神社、主催：富松城跡を活かすまちづくり委員会

第一回歴史文化をめぐる地域連携協議会「地域歴史遺産の新しい活用のあり方を考える」

2003年3月2日（日）於：神戸大学滝川記念学術交流会館、報告：松下正和「史料ネット活動について」、主催：神戸大学地域連携センター、『平成14年度大学改革等推進経費報告書 歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業』（神戸大学文学部、2003年3月）に掲載

「市民から引き継いだ古文書整理等」事業成果市民講座「歴史ある町神戸～村の古文書からみる西代のむかし」、2003年5月11日（日）@神戸市長田区 シューズプラザ 参加57名

添田仁「西代協議会所蔵文書と西代村」、河野未央「近世西摂津地域の村々と年貢米輸送」、奥村弘「西代村の明治維新」、主催：歴史資料ネットワーク、後援：長田区役所、協力：西代協議会



また長田区西代の史料のうち、整理終了分について小講座を開催し成果を地域に還元した。

さらに、尼崎市の富松城を活かすまちづくり委員会の諸企画、「火垂るの墓を歩く会」、シンポジウム「公害・環境問題史料保存・活用ネットワークをめざして」に後援・協力した。他には、神戸大学文学部地域連携センター主催の歴史文化をめぐる地域連携協議会「地域歴史文化の新しい活用のあり方を考える」に発言参加した。

### 3. 震災記録保存

5月26日の総会に合わせて人と防災・未来センター（一期工事分）の見学会を実施した。さらに2003年2月19日に開催された震災資料の保存・活用に関する地域連携研究会（主催：神戸大学文学部地域連携センター）に参加し、意見交流を行った。

研究集会「災害と歴史資料 - 各地の史料（資料）ネットの活動から」2002年5月26日（日）@人と防災未来センター、藤田明良「歴史資料ネットワークの活動と課題」、小林准士（山陰史料ネット）「山陰史料ネットの活動について」久保隆史（広島史料ネット）「広島歴史資料ネットワークの芸予地震被災資料（史料）救出活動」寺内浩（愛媛資料ネット）ペーパー報告

『歴史評論』633号（2003年1月発行）「特集：遺跡の保存・活用と歴史認識 災害と歴史資料 史料ネットの経験から」佐賀朝「被災史料救出活動の新展開」、藤田明良「歴史資料ネットワークの活動の展開と課題」、小林准士「山陰史料ネットの活動について」、寺内浩「愛媛資料ネットの活動と今後の課題」、保坂裕興「発言 - 災害と歴史資料によせて」

### 4. 災害対策

5月26日の総会後に研究集会「災害と歴史資料 - 各地の史料（資料）ネットの活動から」を開催し、山陰・愛媛・広島・山口の各史料（資料）ネットの経験をもとに、資料保存や大規模災害対策に関する意見交流を行った。さらに、この内容をもとに『歴史評論』633号（2003年1月発行）に「特集：遺跡の保存・活用と歴史認識 災害と歴史資料 史料ネットの経験から」を掲載した。また、緊急対応基金を創設し100万円を計上した。

### 5. 情報発信と会員拡大

ホームページの整備をすすめ、各方面への情報発信の充実をはかった。ニュースレターは、予定どおり年4回の（2002年9月2日 第29号、2002年11月5日 第30号、2003年1月8日 第31号、2003年4月17日 第32号）発行した。メールニュースについてはテスト配信を1回実施するにとどまった。また、昨年度まとめた活動総括集の出版に向けた出版社との交渉を開始した。この1年間の書籍販売実績は、計129,452円の売上（『神戸と平家』68冊、シンポ記録集2冊、『史料ネット総括集』5冊）があった。最後に5月1日現在の会員は103名・5学会、サポーター36名、ニュースレター購読者60名である。

### [ 参考資料 ]

#### 2002年度 歴史資料ネットワーク決算報告書

(2002年4月8日~2003年5月2日)  
(単位:円)

< 収入の部 >

勘定科目	予算額	実績額
前年度繰越金(1)	1,556,956	1,556,965
学会会員会費(2)	50,000	33,500
個人会員会費(3)	1,000,000	742,500
寄付(サポーター等)(4)	800,000	177,889
ニュースレター購読料	60,000	87,500
資料代等(5)	120,000	164,820
書籍・記録集売上(6)	200,000	129,452
その他(7)	0	223
合計(8)	3,786,956	2,892,849

神戸市委託事業については、特別会計で処理 [参考資料] 参照

- 02年度繰越金予算額 = 昨年度予算額1400717円 + 特別会計「神戸と平家」売上繰入156239円
- 歴史学研究会・日本史研究会・大阪歴史学会・大阪歴史科学協議会・京都民科歴史部会の5団体分
- 一般会員 + 学生・院生会員
- サポーター寄付金138000円 + いわゆる寄付金39889円
- 市民講座配布資料代85320円 + 懇親会(ワインパーティー)会費79500円
- 平家と神戸、シンポ記録集、総括集売上
- 普通預金利息、利子
- 3786956は02年度予算案合計の4386956のうち、特別会計に移した神戸市委託事業600000を差し引いた額

<支出の部>

(単位:円)

勘定科目	予算額	実績額
事務局人件費(1)	1,800,000	39,200
事務局行動費(2)	120,000	130,000
通信費(3)	300,000	206,757
印刷費(4)	200,000	43,336
消耗品費	30,000	90,782
市民講座諸経費(5)	150,000	250,789
史料整理交通費等	300,000	48,704
図書雑誌購入費(6)	0	104,134
手数料(7)	0	280
緊急対応基金へ(8)	1,000,000	1,000,000
予備費(9)	486,956	978,867
合計	4,386,956	2,892,849

- 1 ニュースレター発送 事務所引越代など臨時バイト代
- 2 事務局員2名×5000円×13ヶ月
- 3 ニュースレター発送 行事告知葉書など
- 4 総括集印刷代・ニュースレター用紙印刷代
- 5 市民講座懇親会経費76901円を含む
- 6 『神戸と平家』購入代金。01年度まで特別会計として計上したが、02年度より一般会計に繰り入れ。
- 7 振込手数料
- 8 特別会計へ繰り込む
- 9 予備費予算額 = 昨年度総会予算額330717円 + 特別会計 歴史の中の神戸と平家』売上156239円

[ 参考資料 ]

平成14年度神戸市委託料精算書

1. 人件費に関する経費	* 賃金	単価 13,000 × 100 人日 = 1,300,000 円
		単価 10,000 × 173 人日 = 1,730,000 円
		単価 7,600 × 195 人日 = 1,482,000 円
		単価 8,000 × 57 人日 = 456,000 円
		欠務による減額 107,477 円
		小計 4,860,523 円
	* 手当	交通費 452,220 円
		* 労災保険 29,220 円
人件費合計		5,341,963 円
2. 物件費に関する経費	* パソコンレンタル代	194,250 円
	* 事務費	5,341,963 × (559,000 / 5,691,754) = 524,646 円
物件費合計		718,896 円
3. 総計		6,060,859 円

よって委託金 6,500,000 - 6,060,859 = 439,141 円は神戸市に返却

[ 参考資料 ]

歴史資料ネットワーク 2003年度活動方針

1. 被災史料の整理や被災地での調査活動

阪神・淡路大震災後の救出活動で保全された歴史資料のうち事務局保管の未整理分について整理計画にもとづいて引き続き院生・学生・市民などのボランティアを中心にした作業を進める。また、被災地での追跡調査を含めた総合史料調査も、引き続き神戸市文書館や神戸大学文学部地域連携センターと協力して進める。

2. 市民との連携を重視した地域史研究や地域遺産保存・活用の取り組み

歴史研究の成果や地域遺産の活用に関する市民と研究者の交流の場としての「市民歴史講座」を今年度も実施する。また補助金・研究助成による共同研究など大学や研究機関等とも連携し、地域史や史料保存・活用などの研究成果の蓄積をめざす。さらに、地域史の掘り起こしや地域遺産の活用をはじめ、地域の歴史・文化に関わる

さまざまな市民の取り組みへの積極的な連携や支援を継続していく。

### 3. 震災記録保存

関係団体や市民との連携と意見交流をはかり、阪神・淡路大震災の資料保存と記録化・活用に関する研究会を今年度も引き続き開催していく。また二期工事が完成した人と防災・未来センターをはじめ、災害史などこの分野に関する研究会や展示企画への参加や見学を行うとともに、行政への働きかけを続ける。

### 4. 災害対策

山陰・愛媛・広島・山口の各史料(資料)ネットをはじめ、各地の関係機関・団体との交流と連携を継続する。また、東南海大地震のような大規模災害対策の研究と準備を関西で開始する。さらに、新たに大地震などの災害が発生した場合には、情報把握や関係機関・団体・研究者の連絡にあたり、臨機応変に緊急対応基金を活用して救援体制の立ち上げを積極的に支援する。

### 5. 情報発信と会員拡大

ホームページによる各方面への情報発信の充実を引き続きはかる。ニュースレターは定期刊行を維持するとともに、内容の充実に努める。また昨年度、試行的に実施したメールニュースの本格的配信を開始し、企画や活動のアウトラインをすばやく伝える。さらに、活動総括集の出版についての交渉を継続する。既発行の書籍・報告集については、引き続き頒布努力をおこなう。さらにレター購読者に呼びかけるなど、会員やサポーターの拡大に積極的に取り組む。

#### [ 参考資料 ]

#### 2003年度 歴史資料ネットワーク予算案 (単位:円)

##### < 収入の部 >

勘定科目	予算額	備考
会費収入	1,280,000	
学会会員	40,000	
個人会員(一般・院生)	1,000,000	200人*5000円=1000000 (プラス90名以上)
サポーター	210,000	70人*3000円=210000 (プラス40名)
ニュースレター購読	30,000	30人*1000円=30000 (現NL購読者の会員等へ移行をめざす)
寄付金	40,000	
市民講座資料代	100,000	50人*4回*500円=90000
市民講座懇親会参加費	160,000	20人*4回*2000円=160000
書籍 記録集 総括集売上	130,000	
前年度繰越金	978,867	
合計	2,688,867	

##### < 支出の部 >

(単位:円)

勘定科目	予算額	備考
専従事務局員	1,000,000	10000円/日*8日/月*12ヶ月
事務局行動費	240,000	4人*5000円*12ヶ月
事務局臨時経費	120,000	
総会諸経費	30,000	
市民講座諸経費	240,000	4回*60000円=240000
その他企画諸経費	30,000	
史料整理交通費等	100,000	交通費50000円+行動費50000円
ニュースレター印刷代	30,000	会員倍増計画により
ニュースレター郵送代	200,000	会員倍増計画により
総括集印刷代	60,000	40部*1500円 (神大生協で製本した場合)
総括集出版準備金	500,000	
図書雑誌購入費	43,000	神戸と平家 30冊*1417円=42510
備品消耗品代	70,000	
予備費	25,867	
合計	2,688,867	

神戸市文書館事業については 参考資料 参照。

緊急対応基金(100万円)は、大災害による緊急出動時の準備資金

##### < 特別会計 >

(単位:円)

勘定科目	準備額
緊急対応基金	1,000,000



[ 参考資料 ]

平成15年度神戸市委託事業予算案

人件費	新規雇用労働者の給料	3,990,000	(1)判読・目録作成 10,000円×15日×(6ヶ月×2) = 1,800,000円 (2)入力作業 7,600円×15日×(6ヶ月+3ヶ月×3) = 1,710,000円 (3)マイクロフィルム撮影補助・デジタルカメラ撮影 8,000円×15日×4ヶ月 = 480,000円
	通勤手当	558,000	1,200×465日 = 558,000円
	超過勤務手当	0	
	労働災害保険料	25,014	4,548,000円×5.5/1000 = 25,014円
	雇用保険料 団体職員の人件費	0 1,203,382	該当者なし ・給料 13,000円×8日×11ヶ月 = 1,144,000円 ・通勤手当 600円×8日×11ヶ月 = 52,800 ・労災保険料 1,196,800円×5.5/1000 = 6,582円
	全人件費に係る消費税	288,819	
	人件費合計	6,065,215	
物件費	消耗品費	200,000	・PCレンタル1台 = 84,000円(80,000円+消費税) ・資料カード ・保存用紙 ・保存箱 ・印刷用紙 ・文書修復道具 ・その他
	事務費	234,785	・通信連絡費 ・給与振込手数料 ・その他
合計		6,500,000	

[ 参考資料 ]

2003年度運営委員一覧(順不同・6月16日運営委員会にて決定)

奥村弘(代表委員、神戸大学史学研究会)

藤田明良(副代表)

松下正和(事務局長、京都民科歴史部会)

石黒志保(神戸女子大学史学会)

内海寧子(大阪歴史科学協議会)

大国正美(神戸史学会)

鎌谷かおる(大阪歴史学会)

河野未央(日本史研究会)

佐賀朝(大阪歴史科学協議会)

辻川敦(個人)

松永友和(大阪歴史科学協議会)

史料整理ボランティアの募集

表紙でもお伝えしましたように、史料ネットでは毎月一回のペースで阪神大震災被災史料の整理を行っています。次回は7月12日(土)午前10時から、神戸大学文学部古文書室で行う予定です。今回もボランティアで手伝って頂ける方を募集しています。古文書素人の方も大歓迎です。

詳細は史料ネット(担当:河野)までお問い合わせ下さい。



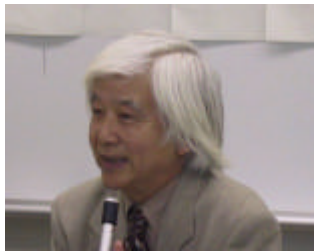
## 「歴史資料の保存・活用と地域社会」開催

佐賀朝

2003年度総会に続いて、史料ネットも含めた史料保存活動の到達点を探り、地域史料を中心とする歴史資料の保存・活用についての課題を考えるという趣旨で、フォーラムが開催されました。

芝村報告の概要

まず芝村篤樹氏（桃山学院大学経済学部、大阪歴史学会代表委員）による報告「地域史料の保存と現代歴史学の課題」が行われました。報告では、芝村さんがこれまで関わってきた大阪府・市の文書館設立運動、震災資料の保存活動、公害問題資料の保存活動という三つの活動が取り上げられました。以下、その内容を要約しておきます。



1980年代に取り組みされた活動は、色々な意味で現在の関西における近代史料の保存運動の源流になっているものであった。そこでは文書館の設立を行政に対して要求していくなかで、たとえば「文書館か公文書館か（民間所在史料を対象とするかどうか）や情報公開制度との関係、専門職員の配置といった点が大きな争点になった。運動の結果、ともかくも大阪府・大阪市にそれぞれ文書館が設立されるという成果を生んだが、担い手の層が薄かったこと、運動関係者が最終的に行政側の委員として参加することで、運動の原則的主張を貫徹するのが容易ではなかったなどの制約もあった。その後、90年代に入って行政内外の事情で文書館施設の改善

は停滞しており、初期に争点となったような問題は現在も解決されずに残っている。

次に、現在進行中である震災資料保存活動は、史料ネットをはじめとするボランティア的な取り組みのなかで展開している点に大きな特徴がある。震災資料の問題はいくつかの局面でこれまでの史料保存活動には見られない特徴を生んだ。特に(a)集めるべき対象を「震災に関わる一切の資料」（文字・映像・モノ etc.）とした点、(b)資料を利用する主体についても、単に歴史研究者ということではなく、さまざまな学際的研究の対象となりうることを想定することになった点、(c)保存や収集を行う主体も多様であり、特定のところに集中することはありえず、ネットワーク型保存が必然的に求められて点、などが重要である。ただ、この活動でも多くの新しい局面を開拓しながら、「人と防災未来センター」の現状に示されるように、行政の壁が厚いなど、さまざまな限界を抱えている。

そして、これも進行中である公害問題資料保存活動は、大阪西淀川のあおぞら財団だけでなく関連活動団体の全国的なネットワーク形成を目ざして活動が進められているなど、注目すべき特徴を持つものである。しかし、ここでも事業を継続的に展開する財政的・人的保障の難しさなど、クリアすべき課題は少なくないと言える。

こうした活動は、「無から有を生ずる」とも言うべき小さくない成果を上げ、着実な前進を勝ち取ってきたといえる。しかし、共通して存在する「行政の限界」という問題、支える層がまだまだ薄い（社会的合意の未形成）といった問題をどう越えていくのか、あるいはそもそもなぜそうなのか、をあらため

て考える必要がある。そして、こうした史料保存運動の状況は、歴史研究者と歴史学の現状の一側面を反映するものでもあって、研究方法や学問のシステム化が進むなかで、こうした活動に見られるような「ボランティア性」の発揮しにくい状況が大きな壁になっているように見える。こうした活動を進めるなかで、自己の領分を越えて活動する元気な担い手がたくさんいるということ（「ボランティア性」）が何より大事で、その幅と継続性をどれだけ大きくしていけるかが、大事といえるだろう。

奥村代表のコメント

以上の報告を受けて奥村弘史料ネット代表委員がコメントを行いました。奥村コメントでは、以下のような三点が



述べられました。最近のアーキビストと歴史研究者との機械的な役割分担論に見られるように、史料を扱う専門性と社会を対象とする研究とを切り離すような傾向は気になる。お互いにとってそれは問題がある。また、実

物資料や一次史料の持つリアリティ、あるいは研究対象としている社会が持つ歴史性に、社会科学者全体が鈍感になっているような状況も見受けられる。これも大いに危惧している。こういう状況をどのように考え、どう克服したらよいのだろうか。1990年代以降進んでいるリストラや財政難のなかで、史料保存における役割をめぐって行政と研究者の関係が変容してきている。歴史資料を扱うような専門性を社会あるいは行政のなかでどのように位置づけるべきか。難しい問題だが、考える必要があるのではないか。そうしたなかで、では歴史研究者は何を担うべきか、自分としては「全体史的な志向性」を持ち続けることが、歴史学を学んできた立場にとっては重要ではないかと思う。史料の保存や研究を通じて社会と関わることが、ひじょうに狭い形でしか行われていないような現状があるとすれば、それは「全体史的な志向性」が弱まっているということではないか。その意味では史料ネットのような場を通じて、若い学生や院生たちが地域の人たちと交流しつつ、自分の歴史研究の意味を問い直すことはひじょうに意味のあることではないだろうか。

（さが・あした / 桃山学院大学助教授）

#### 東北地震被災地の歴史資料・文化財関係者の皆様へ

このたびの大震災で被災された大きな被害と、今も続く不自由な生活に対し、謹んでお見舞い申し上げます。

私たち歴史資料ネットワーク（事務局・神戸大学文学部内）は、阪神・淡路大震災の被災地で、歴史資料を始めとした文化遺産の救出・保全をおこなってきた歴史研究者の団体です。私たちは、1995年1月の震災時に、全国の歴史学会など関係団体から支援をうけて、自治体や市民と協力しながら、地域社会の民間資料の救出や文化財の被害調査などをおこなってきました。また、今日も引き続き被災地における文化遺産の保全・再生に取り組んでいます。

この阪神・淡路大震災における歴史資料・文化財の保全復旧活動は、少なくない成果をあげました。また、当初心配されていた被災住民の反感もほとんどなく、むしろ好意的な反応がほとんどでした。しかし、その一方で、損壊建築物の解体の際に焼かれたり、道路復旧で撤去・破壊されたりした古文書や石造物も多く、それまであった文化遺産の三分の二が、被災地域から消失してしまったという報告もあります。前例がなかったこともあり、活動の始動が地震発生から約1ヶ月後と、遅かったことが現在の反省点の一つとして挙げられています。

その反省をふまえ、2000年の鳥取県西部地震や2001年の芸予地震では、阪神・淡路大震災の経験を伝えるのみでなく、神戸市から被災地へ多くのボランティアを派遣し、地震直後から活動を開始しました。その際、現地でいち早く、組織的な保全活動についての体制がとれるかどうか、その後の地域遺産保全をすすめる上で重要であることが明らかになりました。

今回の東北地震の被災地は、歴史的環境の豊かな地域として知られています。収蔵施設に保管されているもの、文化財指定を受けているものの他にも、地域のあちらこちらに、先人の営為を伝える歴史資産、文化遺産が数多く存在するはずです。

それらが今回の大地震を乗り越えて保全されれば、被災地域の社会や文化の復興に大きな力になります。古文書・写真・日記・さまざまな個人や団体の文書や記録、民具・石造物など地域遺産が、震災のせいで姿を消してしまわないよう、関係者は手立てを尽くすべきであると考えます。

これまでの経験からすると、被害が小さくとも旧家の本屋や蔵のわずかな雨漏りなどが原因で撤去・建て替えがあり、その際存在を認識されていない古文書等がひんぱんに廃棄される可能性があります。私たちは、地震後の地域遺産の保全に携わってきたものとして、出来る限りの支援・協力をしていくつもりです。地元での保全活動をすすめられるようお願いする次第です。

## 「神戸の空襲・戦災史をさぐる」開催

辻 川 敦

**本** ニュースの前号でも予告したとおり、2003年4月27日、震災復興市民歴史講座の第4回を以下のとおり開催した。

### 《プログラム》

テーマ 神戸の空襲・戦災史をさぐる

日 時 2003年4月27日(日)

・午前9時～11時30分：

ウォーキング(オプションツアー)

生田神社 イスラムモスク

東福寺 阪急春日野道駅解散

・午後1時30分～4時30分：

講演とディスカッション

講演 「神戸大空襲について」中田政子さん(神戸空襲を記録する会代表)

講演 「米軍資料から見た神戸大空襲」辻川 敦(火垂るの墓を歩く会、史料ネット)

パネルディスカッション

「神戸・阪神地域の空襲・戦災史の取り組みについて」

パネラー 佐々木和子さん

(神戸大学文学部地域連携研究員)

飛田雄一さん(神戸青年学生センター)

正岡茂明さん(火垂るの墓を歩く会)

講演者もディスカッションに参加

・午後5時～7時 懇親会パーティー

### 企画のねらい

今回の市民講座は、神戸大空襲の全体像を市民にわかりやすく提示することと、神戸・阪神地域で空襲・戦災史に取り組む関係者が集まり、この分野での現状と課題について話し合うことをねらいとした。

この講座開催を機に、この分野の関係団体や関係者とのネットワークを従来以上に充実

させるべく、企画そのものを神戸空襲を記録する会との共催とし、神戸青年学生センターの後援も得て実施した。

### 実施内容

午前中のウォーキングには、主催者側も含めて40数人が参加し、神戸空襲を記録する会の光森史孝さんと中田政子さんの解説によりコースを歩いた。ウォーキングの内容についてくわしくは、本ニュースに掲載されている光森さんの文章をご参照願いたい。

午後の講演会には、スタッフを含めて約70人の参加があった。一人目の講師の中田政子さんは、神戸空襲を記録する会が作成したビデオを使って、自身の母親の空襲体験にもふれながら、神戸大空襲の全容と記録する会の歩みを紹介した。続いて辻川が、米軍史料をもとに、神戸大空襲において米軍が何を目標に、どのようにして市街地焼夷弾空襲を行ったのか、米軍の爆撃戦略の流れに沿って解説した。

続いて、講演者のふたりを進行役として、パネルディスカッションを行った。まずはじめに佐々木和子さんが、最近各地で取り組まれている空襲犠牲者名簿の収集と公開の問題などについて述べ、ピースおおさかの積極的な取り組み事例にも言及した。次に飛田雄一さんが、強制連行された朝鮮人・中国人や連合軍捕虜の、神戸や兵庫県下での労働に関する、最近の研究動向などを紹介された。最後に正岡茂明さんから、1999年以来継続してきている「火垂るの墓を歩く会」の取り組みについて、紹介があった。

これらのコメントを受けて、会場もまじえた意見交換を行った。空襲・戦災史をめぐる

て、さまざまな関心や調査研究テーマを持つメンバーから多岐にわたる情報提供や問題提起をいただき、短時間のディスカッションのため個々の課題を深めるには至らなかったが、それなりに有益な情報交換の時間が持てたのではないかと考えている。

### 企画実現の舞台裏

今回の企画は、実現に至るまで構想が二転三転した。近代史の分野では、古代～近世と同程度の市民参加を得られる内容設定自体がむずかしいと予想された。検討の結果、史料ネットの周囲で過去一定の取り組み実績があり、市民の関心もかならずしも薄くないと思われる空襲・戦災史をテーマに、企画をたてることに落ち着いた。

その後、2002年の暮れ頃から企画具体化の相談をはじめた。当初は、より知名度の高い講師をたてて大々的な集客をねらったプランもあったが、実現に向けた折衝の過程で断念せざるを得なくなり、実施時期も大幅にずれ込む結果となった。

### 実施結果と反省点

実施結果については、第3回までの講座にくらべれば多少見劣りするとは言え、ある程度の参加人数もあり、寄せられた感想も比較的好意的なものが多かった。しかしその一方で、企画の意図や内容について、いくつか批判的な意見・感想も寄せられたので、まずその点を記しておきたい。

一点目は、プログラム中、現在の朝鮮半島と日本をめぐる情勢に関するコメントがあったが、それが内容的にも時間的にもやや突出した印象であったこと等への批判的感想である。微妙な点を含んでいるので短絡的な評価は避けたいが、少なくとも「神戸の空襲・戦災史をさぐる」という当日の共通テーマに即した形で、さまざまな派生する課題も取り上げていくべきであるという点に照らして、企画者としては若干反省すべき点があったものと考えている。

二点目は、講座全体のねらいについてである。講座実施後の運営委員会において、ふたりの講師による講演内容の相互関係や、講演とディスカッションの内容の関連性はどうか

あったか、全体として参加した市民になにを伝えたかったのか、大きな枠組みのところからはっきりしなかったのではないかと、という指摘があった。参加者の感想文には、こういった点を明確に指摘したものはなかったが、全体的に見ると手放しで評価する感想ばかりではなく、あるいは運営委員会での指摘と同様の印象が他の参加者にも残ったのではないかとと思われる。

このことに照らして言えば、まず第一に、広く市民を対象に神戸大空襲の全体像をわかりやすく説明するというねらいに即して考えれば、講演会の設定にやや無理があった（特に時間的制約）。加えて、第2部は空襲・戦災史上の課題をディスカッションするという、どちらかと言うと関係者向けの内容であったため、企画全体のねらいが広く市民向けなのか関係者向けなのかという点で、どっちつかずなものとなったことは否めない。

ただ、この点は今回の企画固有の問題点もある一方で、市民講座のスタイルそのものにかかわることであろうと考えている。一連の市民講座は、参加者に対する一方的講義で終わるのではなく、できるだけ能動的に参加してもらおう双方向性を重視しており、そのため講演・ディスカッション・パーティというセットを基本としている。しかし、このスタイルをとれば必然的にスケジュールは冗長となり、その割にはひとつひとつの内容を深めることができず、しかも広く市民を対象とした講演会なのか、ディスカッション中心に関心ある能動的な市民を主たる参加者とするのかという矛盾が、常にある程度は付きまとう。今後、講座のスタイルやスタンスをどのあたりに置いていくのかという点で、検討すべきことがあろう。

### おわりに

以上、今回の講座について、反省点を中心に総括してきた。最後に、こういった反省点をふまえつつ、多少とも肯定的評価にもふれて、この文章を終えることとしたい。

神戸の空襲・戦災史については、1970年代以来、神戸空襲を記録する会を中心とした体験記録化の取り組みがあり、1980年代なかば以降は、他地域における空襲・戦災史研究と



同様に、米軍史料の翻訳と調査研究が進められてきた。しかしながら、これらの成果を総合して、神戸大空襲の全体像をわかりやすく市民に提示する企画は、実はこれまで一度も実施されたことがなかった。誇大な自己評価は避けるべきだが、今回の講座はこのことをはじめて具体化したという点で、神戸・阪神地域における空襲・戦災史の取り組みにおいて、多少なりとも歴史的意義を持つものであったと思う。

それと同時に、第3回までの市民講座と同様に、パネルディスカッションや講座終了後の懇親会パーティでさまざまなメンバーが語り合えたことも、意味あることであったと思う。なかでも、神戸空襲を記録する会のベテ

ランメンバーである上野賀山さんが、パーティの席でみずからの空襲体験を語り、上野さんの盟友である玉井洋子さんが、「上野さんはこれまで人前で自らの体験を語ることがなかった。上野さんがそういう話をする機会となった、この場を持てたことがたいへんうれしい」というふうに言われたのが、強く印象に残った。

空襲・戦災史は大きく重たい課題であり、実体験世代もそうでない世代も、この分野に関わる人間はいずれもさまざまな重荷やためらい、迷いを背負って取り組んでいる。それでいてなぜ関わり続けるのか、そんなことも、多くの皆さんに知っていただければと思う。

(つじかわ・あつし / 史料ネット運営委員)

#### << 第三回震災復興市民歴史講座参加記

##### 史料ネット第4回市民講座参加記

光森 史孝

「神戸の空襲・戦災史をさぐる」をテーマに、歴史資料ネットワーク、神戸空襲を記録する会共催の戦跡ウォークと講座が4月27日、神戸市内で行われた。

ウォークは記録する会(中田政子代表)が毎年3月17日を中心に市内各地で行っているが、今年は講座に合わせて開催。出発地の生田神社には約40人の市民が参加し、世話役の玉井洋子さんが詩を朗読。「アルカッシャの森」(足立巻一作)「三角帳場にて - 中央区中山手通1丁目」(内田豊清作)を聞きながら空襲で焼け野原になった生田の森や三宮一帯の情景を思い浮かべた。近くのムスリムモスクは空襲で唯一焼け残った建造物。礼拝所でキルキー理事長に当時の様子をお聞きすることができた。最後の訪問場所となった東福寺では、兵庫朝鮮関係研究会の梁相鎮(りゃんさんじん)さんが、空襲で亡くなった朝鮮人労働者の実態解明がまだ十分に行われていないことを報告した。同寺には、朝鮮人労働者の遺骨の一部が、パゴダ様式の仏舎利塔で供養されている。

記録する会は空襲犠牲者の慰霊祭(3月17

日)や犠牲者の名簿づくり、記録の収集と保存、語り部による伝承などの活動を続けており、当時を知る人や若い世代の活動への参加を呼びかけている。

一方、講座はウォークの後、神戸青年学生センターで開かれた。神戸空襲を記録する会からは中田代表が講演に立ち、神戸空襲の実相と記録する会の30年余の活動について話した。内容についてくわしくは、このニュースに掲載されている辻川敦さんの報告文にゆずるが、講演者やパネラーが、それぞれの立場から空襲の実態を明らかにし、戦争について考える活動について報告し合った。参加者のなかからも「平和を積極的に築くために、もっと記録し伝える活動を広げよう」という声が上がっていた。

記録する会と史料ネットが連携して神戸空襲をさぐる講座を開いたのはこれが初めて。記録する会は、これまで慰霊祭、被災体験の聞き取り・記録・保存、語り継ぎなどを中心に活動してきたが、ここ数年、兵庫県内各地で活動を続けている人たちとの連携が増えている。その結果、米軍資料による空襲の実相の補強、被災体験者の新たな発見など活動の幅が広がっている。今後、ネットワークを一層広げ、より多くの人たちと活動をともにできるように願っている。

(みつもり・のぶたか / 神戸空襲を記録する会)

## 「歴史あるまち、神戸」開催

添 田 仁

### 平成 14 年度神戸市緊急地域雇用創出特別交付金事業「市民から引き継いだ古文書整理等」事業報告

歴史資料ネットワーク（以下、史料ネットと省略）では、平成 14 年度神戸市緊急地域雇用創出特別交付金事業「市民から引き継いだ古文書整理等」の事業について神戸市からの委託を受け、「市民から寄託・借用中の古文書の整理・目録作成をおこなった。さらにマイクロフィルム等の撮影を進めることにより、神戸市内に現存する歴史資料の保存・閲覧資料等としての活用を図る」という事業の目的に沿ったかたちで、神戸市文書館において資料整理作業を進めてきた。（事業費の内訳については、本号 7p 参考資料 と 9p 参考資料を参照のこと。当事業の実施に際しては、専門能力を有する文書判読担当者を 3 名、カードにまとめられたデータのパソコンへの入力担当者を 3 名、目録作成を終えた史料のマイクロフィルム・デジタルカメラ等への撮影補助担当者 1 名、都合 7 名を新規雇用労働者として雇用し、さらに事業の全体統轄者として史料ネットからも 1 名派遣した。なお、全体統轄者を除く、新規雇用労働者の雇用については、神戸市域のハローワークと史料ネットのホームページに掲載して募集をかけた。）

平成 14 年度の具体的な事業内容としては、震災時に救出され、現在神戸市文書館に保管されている近世～近代の文献資料（柴田家文書、西代協議会所蔵文書など）を中心とした約 7000 点の古文書について、カード・目録の作成、旧目録との照合などの整理作業を中

心に、紙焼き、マイクロフィルム・デジタルカメラによる撮影など保存・公開の準備も並行して進めるものであった。

なお、今回整理した古文書のうち、西代協議会所蔵文書については、当事業の成果報告として、以下のように西代協議会所蔵文書を用いた小講座を開催した。

平成 15 年 5 月 11 日（日）午前 10:00～12:00

「歴史あるまち、神戸

- 村の古文書からみる西代のむかし -」

於：神戸市長田区シューズプラザ

報告 添田 仁（神戸大学大学院生）

「西代協議会所蔵文書と西代村」

講演 河野未央（神戸大学大学院生）

「近世西摂津地域の村々と

年貢米輸送」

講演 奥村 弘（神戸大学助教授）

「西代村の明治維新」

司会 熟美保子（関西大学大学院生）

主催：歴史資料ネットワーク

共催：神戸大学文学部地域連携センター

後援：長田区役所

協力：西代協議会

西代協議会所蔵文書は、すでに神戸市教育委員会によって調査が行なわれ（成果は『神戸市文化財調査報告書 / 神戸市文献史料第 6 巻』、1984 年）、西代の協議会所に保管されていたが、震災で会所が倒壊するなど大きな被害を受けた。平成 7 年度の神戸市域の被災史料巡回調査活動の際にそのことが判明したた

め、史料ネットの方で、西代協議会の了承を得て、当事業での再調査と保存、公開の準備を進めることになったのである。本文書については、当事業で新目録を作成し、かつ近世のものについては、紙焼き・マイクロフィルム撮影を行い、近代以降もデジタルカメラでの撮影を行った。すでに目録・紙焼き・マイクロフィルムについては、神戸市文書館で公開されている。



小講座の開催にあたっては、会場の確保や講座の宣伝など、西代協議会の方々の主体的な活動によるところが大きかった。また当日も、地元の方々を中心に 57 名が参加し、報告等に対する会場からの質問も活発になされるなど、地元の方々の興味と、報告の内容が <<「歴史あるまち、神戸」参加記

「歴史あるまち、神戸 - 村の古文書からみる西代のむかし - 」報告・講演会参加記

山田 修士

去る 5 月 11 日(日)、長田区のシューズプラザ 4 階において開催された表記の報告・講演会に参加した。当日は、雨中にもかかわらず 60 名ちかい方々が参加され会場はほぼ満席となり、郷土の歴史に対する関心の深さを実感した。

この講演会は、江戸時代から引き継がれ、平成 7 年の大震災の際にも倒壊した会所の中から救出するなど、当地の澤田尚久氏を中心に西代の町の人々により大切に保存されてきた西代協議会文書の近世～明治期の保存文書 982 点について、神戸市からの委託を受けた

直接結びついた有意義な講座となった。西代地域の歴史資料の保全に関係の深い協議会を通して調査を行い会を催したこと、使用した史料や絵図が地元の人々に身近なものが多かったこと、研究者だけでなく大学院生による報告が立てられ、会場が気楽に耳を傾けることができたことなどが、本小講座をより活発なものにしたとすることができるのではないだろうか。「長いこと西代に住んでおきながら、地元こんな歴史があるなんてことを知らなかったなんて、恥ずかしいねえ」。会場片づけの際の、一参加者の一言に手応えを感じた。

神戸市緊急地域雇用創出特別交付金事業については、平成 15 年度も新規に委託され、現在神戸市文書館において古文書整理が進められており、今年度についても事業成果報告としての小講座を開催する予定としている。

なお、今回の参加記については、史料ネットの活動に毎回積極的に参加しておられる山田修士氏、西代協議会々長の澤田尚久氏の両者からいただくことができたため、各講演の要旨についてもそちらに譲ることとする。

(そえだ・ひとし/神戸大学大学院)

歴史資料ネットワークの手により、市民にもより分かりやすく、使いやすい目録に再整理されたのを機に、その事業報告と合わせて開催されたものである。今回、これら残された史料が語りかけてくるものを私達がどう読みとるかということが課題となったが、添田仁氏の報告、河野未央氏・奥村弘氏の講演は、いずれも江戸時代中期頃から明治の初めにかけての西代村を中心に、西代協議会保存の豊富な史料を使ったもので、西代村と近隣農村との連帯・相互扶助(運命共同体)がキーワードとなっていた。



添田氏は、前述した事業の趣旨・成果報告と合わせて、畿内地域の村々の横の関係の「広域性」について説

明した。その中では、寛政 10 (1798) 年 10 月に西代村五位之池が大雨出水により堤防が決壊した際、近隣の村々 21ヶ村より人力の援助を受け修復に努めたことや、天保 7 (1836) 年 2 月に、御上の権威を笠に着た兵庫津の大工から、年貢米の取り入れ作業場として必要な梁行 3 間以上の建物については別途冥加金を取り立てたいという不当要求があり、また大工賃も近隣の大工の 1.5~2 倍も割高のため、近隣の手伝い大工に替えたいと西代村も加わった 29ヶ村惣代が奉行所に訴願を行い、同年 4 月に近隣の手伝い大工を使用する権利を獲得していることなどが紹介された。

その上で、西代協議会文書が村の古文書として残ることの意味を、畿内先進地域における村落内の人々の平等性と村役人の入札による選出など、村の「行政」単位への変化という視点から説明した。

河野氏は、近世の村々の重要な責務である年貢米の大坂、京都、江戸の指定箇所への輸送・納入について報告した。また安



永 7 (1778) 年 8 月、年貢米を納める八部郡の村々と、それを委託され兵庫津より海上輸送する兵庫津渡海船船主との奉行所における争論を取り上げ、船主側にとって効率 up による経費削減につながる輸送システムの変更要求に対し、それを受けた西代村を含めた八部郡の村々が、村々負担増となることを理由に逆に出訴し、要求をはねつけたと述べた。



奥村氏は、明治時代の初期について取上げ、廃藩置県を伴う新たな行政区画が設定され、明治 5 (1872) 6 月、西代村は兵庫

県第 3 区に編入され、区長・戸長は旧惣代庄屋・旧庄屋が選出され、江戸時代の支配体制をそのまま制度化していると述べた。また、明治 6 (1873) 年から明治 9 (1876) 年にか

けて実施された地租改正により、江戸時代からの納税システムが大きく変わり、課税算定方法も土地の面積から地味の等級ランク付けによるものとなり、従来村全体での一括請負い、一部金納からすべて個々人が金納することに納税システムが変わったなかで、明治 8 (1875) 年に当地を襲った大早魃の影響もあり、同年末、西代村以下近隣 4ヶ村、また少し時代が下って明治 13 (1880) 年には、西代村以下 3ヶ村が連署し、地価引き下げによる減免を県に歎願したが、政府は見直しを凍結したと説明した。

以上、3 名の方々の西代協議会所蔵文書の史料による報告・講演の後には、会場の参加者より多数の質問が出て関心の深さを感じられた。また特に、今回はじめて、江戸時代の西代村を含む近隣の村々の絵図が資料レジメにフルカラーで数点添付され、当時の当地の景観がビジュアルに眺められてよく理解できたので楽しかった。さらに参考文献も記載されており、自分で知識を深めるのにも役立つと思う。

古文書を保存・整理・活用するということは、研究者・一部マニアの占有ではなく、地元の人々にも公開するということである。広く市民が手軽に史料に目を通し、過去からの繋がりを知ることによって、住んでいる地域にたいする愛着が増し、市民の連帯感もはぐくまれ、より住みやすい活気ある「まち」になればと思う。今回の報告・講演会は、私達の祖先が代々伝えてきた生きたあかしの証拠書類を深い愛着を感じながら残したいという関係者の方々の強い意志と、江戸時代の西代村の人たちの息吹と、参加者の熱気が感じられ、12 時すぎに閉会したが、2 時間が短く感じられる講座となった。

(やまだ・しゅうじ / 史料ネット個人会員)

西代協議会所蔵文書講演会について

澤田 尚久

5 月 11 日の講演会、非常に楽しく聞かせていただきました。ありがとうございました。



また丁寧な資料を多く用意していただき、感謝いたしております。

さて、二つの講演についてですが、まず河野氏が話された江戸時代の西代村と兵庫の湊との関係には、とても興味があります。それに関していえば、当時の年貢米は野田村・板宿村（ともに現長田区）との堺筋に集合させて運搬していたようです。大変興味深く聞かせていただきましたが、少し内容が濃すぎ、普通の方には分かりにくい点がありました。

次に、奥村氏のお話は、全国の状況を踏まえ、かつ分かりやすいお話で、時間が短かったことを残念に思うくらいでした。お話しされた時代の後には、西代村は神戸市に編入され、大正に入り大きな変貌を遂げていくのですが、今後その辺りのところの研究も進める

ことができれば幸甚かと存じます。なお、海軍大演習の時期の、この地域における各家庭の思想、その対応策などについても、現在の有事立法との関連も含めて、とても面白い分野になるのではないかと史料いたします。

史料調査から今回の講演会まで研究していただき、またたくさんの資料を準備していただき本当にありがとうございます。またの機会にお話しただけののを、楽しみにいたしております。

（さわだ・たかひさ / 西代協議会々長）



## 関連団体・会員からの情報

大阪歴史科学協議会

## 大阪歴史科学協議会 7月例会

### 「阪神・淡路大震災記念 人と防災・未来センター」

### 見学と検証のつどい

大阪歴科協は、1995年の阪神・淡路大震災以来、関西や全国の歴史学会と協力して歴史資料ネットワークの活動に参加し、被災地での歴史資料の救出保全活動や市民と連携した地域遺産の活用のための取り組みに協力してきました。震災後すでに8年が経過しましたが、被災地では近年、震災そのものに関わる史資料の収集や保存・利用のための活動が大きく進展しています。

7月例会では、そうした活動とも関わって、阪神・淡路大震災に関わる記録・資料・映像などを展示・公開している「阪神・淡路大震災記念 人と防災・未来センター」を見学し、震災という歴史的な事件をどのように後世に伝えるか、また現代資料の保存や利用・公開がどのような問題を抱えているか、などを考えるため、下記のような見学と検証の会を企画しました。

会員の皆さまのふるってのご参加をお待ちしています。

#### 「阪神・淡路大震災記念 人と防災・未来センター」見学と検証のつどい

日時 7月13日(日) 12:30 集合(防災未来館 1F 入り口付近)

スケジュール(予定)

12:30~14:00 「防災未来館」見学(震災資料室を中心に)



14:00～14:45 「ひと未来館」見学（本年オープンの二期工事部分）

15:00～16:45 検討会（コメンテーター：佐々木和子氏ほか）

場 所 「阪神淡路大震災記念 人と防災・未来センター」

（〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2、

阪神電鉄岩屋駅から徒歩約 8 分、JR 灘駅南口から徒歩約 10 分）

参加費等 入館料（団体料金）640 円が必要です

\* 大阪歴史学会・京都民科歴史部会・歴史資料ネットワークと共催です。

#### 問い合わせ先

大阪歴史科学協議会（〒558-8585 大阪市住吉区杉本町 3-3-138

大阪市立大学大学院文学研究科 塚田孝研究室気付 TEL:06-6605-2390）

歴史資料ネットワーク（〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学文学部地域連携センター内 TEL：078-803-5565）

（E-mail：s-net@lit.kobe-u.ac.jp）

---

### 京都民科歴史部会

---

#### 京都民科歴史部会 2003 年度大会のお知らせ

大会テーマ「近世の天皇・公家研究の現在」

報告者：田中暁龍氏「近世朝廷の法制と秩序」

コメンテーター：母利美和氏・野村玄氏

関西地域において、現在、近世の天皇および公家社会に注目があつまっている。近世における天皇の動向を政治史的に捉えようとするもの、朝廷内の儀式・儀礼に関わるもの、公家「家職」の維持・管理に関する制度史的考察、公家社会と宗教者との関係についての考察など、多様な論点、分析視角が提示されつつある。

史料の多くが存在し、精力的な研究がすすめられてきた関東の研究者との対話が今こそ必要とされていよう。そこで今回東京より田中暁龍氏を報告者として招き、研究者の意見交流の機会をもち、近世天皇および公家社会を問い直していくこととなった。京都において当該研究発展の基盤を作りたい。東西を問わず研究者の積極的な参加を期待している。

日時：7月26日（土）14:00～17:30（午後1時30分受付開始）

会場：京都薬科大学愛学館 2階A21講義室

参加費：500円（レジュメ代として）

懇親会：18:00～20:00（愛学館1階食堂） 一般4000円/学生・院生3000円

#### 《会場へのアクセス》

JR・市営地下鉄東西線・京阪京津線の各山科駅から三条通沿いに西へ徒歩で約10分、五条別れ交差点北の東門より西へ直進つきあたり、または三条通沿いの南門からはいってすぐ

\* 当日は前期試験を実施中ですので、学生の受験の妨げにならないようご配慮をお願いします。

\* 民科会員の方に先にお知らせしていたものから大会の開始時間が変更になりました。ご注意ください。

\*今後の最新情報は、下記のサイトでご覧下さい。

-----  
京都民科歴史部会  
〒607-8412  
京都市山科区御陵四丁野町一番地京都薬科大学南校舎鈴木栄樹教室内  
e-mail [kyotominka@hkg.odn.ne.jp](mailto:kyotominka@hkg.odn.ne.jp)URL  
<http://www.kyoto-phu.ac.jp/labo/kyouyou/eijuszk/kyotominka/minkaindex.html>

---

---

### 神戸大学文学部地域連携センター

---

---

#### 「淡河町の歴史と文化を考える」講演会のご案内

**日時** 2003年7月5日(土)  
14時～15時30分

**場所** 神戸市北区役所淡河連絡所 2階大会議室( :078-959-0131 )  
(淡河町木津字尾通54)  
神戸電鉄道場駅南口より神姫バス淡河連絡所前

**講師** 神戸市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査係長 丹治康明氏  
**テーマ** 淡河本町周辺の史跡 - 考古学の発掘成果を中心に -

**主催** 淡河町自治協議会、淡河ふれあいのまちづくり協議会  
**共催** 神戸市教育委員会文化財課、神戸大学文学部地域連携センター  
**問い合わせ** 北区役所淡河連絡所( :078-959-0131 ) 土日祝を除く

---

---

### 神戸大学史学研究会

---

---

#### 神戸大学史学研究会講演会のご案内

**日時** : 7月19日(日) 14:30～  
**会場** : 神戸大学文学部  
**総会講演** : 「(タイトル未定)」緒方 康氏(神戸大学文学部教官)

今年も神戸大学史学研究会総会を開催いたします。毎年総会とともにに行っている総会講演は、神戸大学文学部史学科にいられた新任の教官に順番にお願いしています。今年は東洋史の緒方康先生にお引き受けいただきました。講演の方は参加費無料ですので、史学研究会の会員でなくともお気軽にお越しください。

---

---

#### 『尼崎市史』を読む会(尼崎市立地域研究史料館主催)

---

---

『尼崎市史』をテキストとして、尼崎地域の歴史を学ぶ講座です。史料館職員が解説するほか、ゲストスピーカーを招いての講演会や、第一巻分科会、世話人会による見学会企画なども実施しています。

**日時** 毎月第3木曜日、午後6時～7時30分  
**場所** 尼崎市立中央図書館セミナー室（尼崎市北城内27・阪神尼崎駅から南東徒歩約5分）  
**参加方法** どなたでも自由に参加できます。資料コピー代実費のみいただきます。

>>> 今後の予定 **第102回例会**

**日時** 平成15年7月17日（木）午後6時～7時30分  
**内容** 『尼崎市史』第3巻第6章第5節4「地方行財政の拡大と尼崎市・小田村の合併」(p632～652)  
 史料館職員が解説します。

<お問い合わせ>

尼崎市立地域研究史料館  
 （火曜・祝日休館、阪神尼崎駅から北東400m尼崎市総合文化センター7階）  
 : 06-6482-5246  
 e-mail : ama-chiiki-shiryokan@city.amagasaki.hyogo.jp

尼崎の近世古文書を楽しむ会

近世の古文書解読について、尼崎市立地域研究史料館が収蔵する尼崎市域の古文書などをテキストに学ぶ、少人数(定員12人)の自主グループです。講師は市民ボランティアの方にお願ひし、随時史料館職員が地域の歴史などを解説しています。

**場所** いずれも尼崎市立地域研究史料館  
**参加方法** 史料館まで随時お申し込みください。担当：中村  
**参加費** 資料コピー代実費のみいただきます。

コース	曜日		時間	テキスト	講師
上級コース	日曜クラス	毎月 第2・第4日曜日	13:30～15:30	水堂村の二 領主支配関 係文書	(グループ 学習形式)
	金曜クラス	毎月 第2・第4金曜日	13:30～15:30	尼崎藩主松 平忠栄の生 母お寿免の 方関係文書	
初級コース	金曜クラス	毎月 第1・第3金曜日	13:30～15:30	友行村庄屋 家文書「触 状控え帳」	石井進さん

<お問い合わせ>

尼崎市立地域研究史料館  
 （火曜・祝日休館、阪神尼崎駅から北東400m尼崎市総合文化センター7階）  
 : 06-6482-5246  
 e-mail : ama-chiiki-shiryokan@city.amagasaki.hyogo.jp

## 第2回・兵庫津研究会サブ学習会

藤田明良

去る5月5日(月)午後1時から、神戸大学文学部大会議室で第2回兵庫津研究会サブ学習会が行なわれた。兵庫津研究会サブ学習会は兵庫津研究会と科学研究補助金共同研究「国家的港湾都市域としての西摂地域の歴史形成過程の研究」の共催で、兵庫津を中心に中世港湾都市と流通について、最新の研究成果について議論する場として設定された学習会で、第1回は「兵庫津と禅宗」をテーマに昨年12月に開催された。今回のテーマは「南都寺院と兵庫関」である。まず、東京都板橋区教育委員会の畠山聡さんが「中世東大寺による兵庫関の経営について 関務権の所在を中心にして」というタイトルで、兵庫北関の領主であった東大寺における関所の管理権のあり方や変遷について報告した。つづいて立命館大学院生の澁谷一成さんが「福智院家文書『兵庫南関関料引付』について」がタイトルで、最近、興福寺の子院で発見された兵庫南関に関する史料について紹介と考証をおこなった。連休中ということもあり参加者は7人と少なかったが、細部にわたってつっこんだ議論が交わされ、充実した学習会となった。

(ふじた・あきよし / 天理大学助教授・史料ネット副代表)

## 西 摂 研 究 会

次回 研究会予告

日 時：2003年7月19日(土)午前10時から

報 告：河野未央氏

題目「『官要録』の記述にみる兵庫津「方角」会所の機能とその変容  
訴訟受理システムの検討を中心に」(仮)

場 所：尼崎市立地域研究史料館 (TEL: 06-6482-5246)

西摂研に関する問合せは、上記史料館・中村、または大阪教育大学・岩城卓二氏まで

## 神 戸 都 市 史 研 究 会

三村昌司

## 第5回神戸都市史研究会のご案内

日時：7月21日（月） 19：00～

会場：神戸大学文学部本館4F 古文書室

内容：三村昌司（神戸大学文化科学研究科）「明治20年前後における神戸商業学校の位置」

神戸をフィールドに近代都市史形成史論の再構築をめざす神戸都市史研究会も、今回で5回目を迎えることとなりました。今回は僭越ながら私が上記のタイトルで報告致します。

『新修神戸市史』でもあまり記述のない神戸商業学校ですが、明治20年ごろの兵庫県政界においてひとつの政治的焦点として盛んに議論される問題でした。そこで今回はこの神戸商業学校問題が当該期において政治史的あるいは都市史的にいかなる意味を持っていたかという点について議論していきたいと考えております。

（みむら・しょうじ / 神戸大学文化科学研究科）

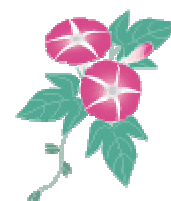
### 文献情報

書名	編著者	出版者	出版年
「震災資料の分類・公開の基準研究会」報告書 ～阪神・淡路大震災関連資料の活用に向けて	(財)阪神・淡路大震災 記念協会	(財)阪神・淡路大震災記念 協会	2002/03
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための 自治体等との連携事業（平成14年度大学改革 推進等経費報告書）	神戸大学文学部地域連 携センター	神戸大学文学部	2003/03/27

論文等表題	筆者（著者）	誌名（書名）	巻号	発行年月日
阪神・淡路大震災後の歴史資料の保全と歴史 資料ネットワーク	奥村 弘	『兵庫のしおり』	5	2003/03/31
歴史資料ネットワークの組織改革について	河野 未央	『日本史研究』	488	2003/04/20

### 活動日誌

2003. 4. 27	第4回震災復興市民歴史講座「神戸の空襲・戦災史をさぐる」を開催
2003. 5. 5	兵庫津研究会（於神戸大学文学部古文書室）
2003. 5. 8	第11回歴史資料ネットワーク運営委員会
2003. 5. 10	震災救出史料整理（於神戸大学古文書室）
2003. 5. 11	「市民から引き継いだ古文書整理等」事業成果市民講座「歴史あるまち神戸」開催
2003. 5. 17	第2回歴史資料ネットワーク総会およびフォーラム開催
2003. 5. 27	東北地震に対し「東北地震被災地の歴史資料・文化財関係者の皆様へ」発信（11p参照）
2003. 5. 28	マスコミ関係者へ「東北地震被災地の歴史資料・文化遺産への注意を喚起する記事掲載のお願い」発信
2003. 6. 1	藤田明良事務局長東北視察
2003. 6. 14	震災救出史料整理（於神戸大学古文書室）
2003. 6. 16	第12回歴史資料ネットワーク運営委員会
2003. 6. 26	ニュースレター33号発行





<<編集後記>>



今回のニュースレターは総会の記録に特集二本と盛り沢山の内容となりました。

先日、史料ネットの活動方針・内容に関するアンケートを実施させていただきました。ご回答いただきましたみなさまに、厚く御礼申し上げます。いただいた貴重なご意見・ご要望は今後の活動に反映させていきたいと思っております。現在集計中ですので、次号のニュースレターにて結果をご報告申し上げたいと思っておりますが、ここで少しだけ内容を紹介したいと思います。

- ・[企画内容について] バリエティのある講座の内容が魅力的
- ・[ニュースレターについて] 研究者から市民まで幅広い意見が載っており、読み応えがあります
- ・[情報発信あり方について](ホームページの)更新が遅い、催し案内がおくれる
- ・[その他] 個人会員の拡大に努力するべき

なかには厳しいご批判もありますが、おおむね好評をいただいております点は、この一年史料ネット事務局員として運営に携わってきた一人として、ほっと胸をなでおろす次第です。しかし、まだまだ至らない点がたくさんあると思っております。今後ともよろしくご指導ください。

史料ネット事務局ではひきつづきみなさまの原稿をお待ちしております。内容は自由ですのでどしどし原稿をお寄せ下さい。(m)

個人会員への入会 “News Letter” 購読のお願い

史料ネットの活動に、平素からご協力いただき、ありがとうございます。歴史資料ネットワークは、改組後も引き続き“News Letter”を年4回発行いたします(年間購読料: 郵送費込み1000円)。改組とともに今後内容を更に充実させる努力を重ねて参ります。皆様方には引き続きご購読いただきますよう、よろしくお願い致します。また、贈呈読者の皆さまには是非とも個人会員へのご入会(年会費: 個人会員5000円、学生・院生会員は半額)ないしサポーター(1口3000円以上)としてご支援いただき、史料ネットの発展にご理解・ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

史料ネット郵便振替口座

名義 歴史資料ネットワーク 口座番号 00930-1-53945

史料保存関係のホームページ「Archivist in Japan」を開設している小林年春さんのご協力により、史料ネットの情報を同ホームページに掲載していただいております。

<http://www.archivists.com/> または <http://member.nifty.ne.jp/archivists/>

または <http://www.asahi-net.or.jp/~hm7t-kbys/archivists/>

史料ネット NEWS LETTER No.33 ・・ 2003.6.26(木)

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学文学部内 TEL/FAX078-803-5565

e-mail s-net@lit.kobe-u.ac.jp

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/macchan/welcome.html>